

---

領域名：地域保健看護

報告者：長堀 智香子

---

### 教育及び実践の課題

---

沖縄県内の実習施設において、住民参加の育成に携わってきた保健師の世代交代が行われており、どのように地区組織が育成されてきたのか十分に把握されていない状況がある。実習において組織育成の場面を学ぶことに課題があるため、住民の組織育成に関わってきた保健師に、ゲストスピーカーとして講義してもらうことを検討する。また、講義において、学生自身に「自分が参加したくなるような自主組織活動というのはどういうものか」を考えてもらうなど、講義内容の工夫が必要である。また、住民参加の重要な要因として、住民とサービス提供者となる専門職者との信頼、尊敬、提携など、お互いの相互作用があることが確認された。そのため、地域の中にどのような制度や資源があるかを把握すると同時に、歴史、文化、伝統を踏まえた住民理解が必要であり、地域アセスメントしていく中でも、その点を重要視していくことが必要である。

### 活用した論文の概要

---

本論文は、なぜ、住民参加が、政策立案者、プランナーや保健プログラムマネージャーにとって困難であるのか、3つの理由を示唆することが目的である。結果、健康に関する住民参加の課題に取り組むための以下の3つの課題が示唆された。

1. 保健専門職は、住民が聞きたいことを聴く

健康改善を理解するためには、プロセスとその結果の両方が重要であり、両方へのアプローチへの対話を組み込むことが必要であることを示唆している。

2. 保健専門職は、住民の持っている経験を聴く

地域住民やサービスプロバイダーとの信頼、尊敬、提携など重要な要因など、個人的な相互作用が見落とされている。

3. 住民は、保健専門職らがすべきだと思う方法では行動しない

保健プログラムで地域に入り込んだ時の私たちの視点、経験、感覚で得たことを記述する必要がある。住民参加は、人々についての本質であり、私たちは、彼らを社会に貢献させるよりも、彼らの声に耳を傾ける必要がある。

---

### 教育及び実践への活用

---

1. 「住民の組織育成に関わってきた保健師に、ゲストスピーカーとして講義してもらうことを検討する」については、その内容に関連する授業科目のコマ数が少なく、その時間を確保できなかった。また、これまで積極的に地区組織育成を行ってきた保健師が少ないことから、人選し依頼するまでに至らなかった。講義内容についても今後検討していく。
2. 「住民が聞きたいこと、持っている経験を聴く」については、地域保健看護実習Ⅱの実習市町村において、担当保健師が母子保健推進員の定例会などへ学生を参加させるなどその機会を積極的に作った。

---

### 参考文献

---

Susan B. Rifkin . (2009) . Lessons from community participation in health programs: a review of the post Alma-Ata experience, International Health 1, 31-36.

---